

..... 原 著

丸森農場における Secondary SPF 豚の中間成績

佐々木 登* 森沢 寛明*

はじめに

我国の養豚は集団的な形質改善の方向による多頭化に進んでいる一方、飼料原料の大半を輸入に依存している。また、養豚経営で生産費のうち、飼料費の占める割合が最も大きい。したがって飼料効率の良いエサの研究開発と、飼料要求率の低い、肉質の優れた養豚とを旨として経営を進めなければならないことは論をまたない。

今回は昭和48年9月に住商鬼怒川農場から育成中の Secondary SPF 豚を当场へ移動し同年11月下旬に種付けされたもののうち、昭和49年3月20日に分娩した初産の豚5頭についての成績を報告する。

材料および方法

母豚L×父豚Wの5腹分、LW♀18頭、LW♂19頭の37頭である。

生後25日齢に離乳し、その後1週間ごとに体重測定をした。

(1) 調査場所

宮城県伊具郡丸森町峠上2番1号 住商丸森農場

(2) 期 間

昭和49年3月20日～昭和49年8月27日

(3) 目 的

本試験は生体重10kg、20kg、90kg到達日齢の目安をつけるのと、その間の飼料摂取量を見当づけるために行なわれた。

生後39日齢までSAM(人工乳A)を給与し、その後SBP(人工乳B)に切り替え、生

後60日齢までSBPを与え、以降SCP(肥育用)に切り替えた。

145日齢より肉豚出荷の目的で、体重調整のため、種豚用APを与えた。したがってこの影響が発育と飼料要求率にも表れている。

切り替え飼料銘柄は表2の成分表のとおりである。

表3の示すように、生後40日齢で10kgに到達し、生後58日齢で20kgに到達した。

その後20kgから90kgまでは83日を要した。表4にはその間の銘柄別飼料摂取量を表している。

また表4には生後25日齢離乳から出荷までの増体重と、その間の飼料要求率を表し、体重20kgから90kgまでの飼料要求率は、概略平均2.67であった。

表5は生後158日齢に体重測定し皮はぎ水引前の枝肉である。

枝肉歩留りが比較的一定しているのが特徴で、むしろ内臓の占める容積が小さいのではないかと思われる。これは他のSPF豚にも一般的にみられる傾向である。

要 約

同日分娩5腹の子豚、離乳時点より出荷まで増体重日齢と飼料摂取量の目的で測定した。

筆者らが第1回発表したのと大差は表れなかった。

表2および表3の銘柄別給与量でも示されるとおり市販の飼料単価で計算すると飼料費も算出が容易である。

* 住商丸森農場

表1 分娩 腹 別 発 育 成 績

	A腹 ♀ 2, ♂ 6			B腹 ♀ 5, ♂ 1			C腹 ♀ 4, ♂ 2			D腹 ♀ 4, ♂ 5			E腹 ♀ 3, ♂ 5		
	平均1頭当り			平均1頭当り			平均1頭当り			平均1頭当り			平均1頭当り		
	体 重	1 日 増	1 日 飼 料 給 与 量	1 日 増	1 日 飼 料 給 与 量	1 日 飼 料 給 与 量	1 日 増	1 日 飼 料 給 与 量	1 日 飼 料 給 与 量	1 日 増	1 日 飼 料 給 与 量	1 日 増	1 日 飼 料 給 与 量	1 日 増	1 日 飼 料 給 与 量
25日齡	5.98			6.23			5.82			6.57			6.38		
32日	6.68	0.10	0.18	7.17	0.13	0.18	6.20	0.05	0.11	7.44	0.13	0.20	7.13	0.11	0.18
39日	8.95	0.32	0.34	9.92	0.39	0.43	8.50	0.33	0.37	9.98	0.36	0.47	9.60	0.35	0.47
46日	12.15	0.46	0.52	13.52	0.52	0.68	11.85	0.48	0.53	13.56	0.51	0.63	12.61	0.43	0.55
53日	16.21	0.59	0.71	17.67	0.59	0.81	13.20	0.20	0.48	16.03	0.36	0.81	15.75	0.45	0.82
60日	21.11	0.70	1.20	22.48	0.69	1.27	18.88	0.81	0.99	22.41	0.91	1.28	20.46	0.67	1.07
67日	27.20	0.87	1.61	28.47	0.86	1.65	24.03	0.74	1.40	29.05	0.95	1.64	25.85	0.77	1.41
74日	32.45	0.75	1.62	34.50	0.86	1.84	29.37	0.76	1.47	32.54	0.50	1.35	30.45	0.66	1.45
81日	37.62	0.74	1.77	40.50	0.86	1.90	34.67	0.76	1.71	37.83	0.77	2.03	34.81	0.62	1.53
88日	42.91	0.76	2.04	45.18	0.67	2.26	40.45	0.83	2.20	44.16	0.90	2.08	40.06	0.75	2.00
95日	48.85	0.84	2.50	51.80	0.95	2.06	46.12	0.81	1.93	50.23	0.87	2.53	46.60	0.93	2.39
102日	55.82	1.00	2.52	56.28	0.75	1.65	51.92	0.82	2.35	57.06	0.98	2.52	51.94	0.76	2.21
109日	60.81	0.71	2.04	64.58	1.19	2.79	56.33	0.63	2.01	63.00	0.85	2.55	56.75	0.69	2.07
116日	66.33	0.79	2.11	68.85	0.61	1.86	62.74	0.92	2.25	68.70	0.81	2.38	62.08	0.76	2.21
123日	73.53	1.02	2.86	77.27	1.20	3.06	68.63	0.84	2.69	74.16	0.78	2.44	67.66	0.79	2.52
130日	79.81	0.90	2.55	83.57	0.90	2.52	74.42	0.83	2.42	79.51	0.76	2.33	73.28	0.80	2.47
137日	85.60	0.83	2.40	87.60	0.60	2.04	78.37	0.57	1.94	86.47	1.00	2.59	79.58	0.90	2.40
144日	92.10	0.93	2.45	95.37	1.11	2.90	84.13	0.82	2.10	91.11	0.66	2.37	82.68	0.44	1.79
151日	96.83	0.68	3.32	100.23	0.71	2.28	91.00	0.98	2.25	95.89	0.69	2.26	88.65	0.85	2.23
158日	102.00	0.74	2.59	105.47	0.75	2.40	96.94	0.85	2.55	100.34	0.63	2.38	91.74	0.44	1.78

表2 給与飼料の銘柄別成分表

組成	粗蛋白質	粗脂肪	粗セロイ	粗灰分	T D N
SAM	23.0%	3.0%	3.5%	8.0%	83.5%
SBP	18.0	2.0	3.5	8.0	80.6
SCP	16.0	2.0	6.5	9.0	78.0
種AP	14.0	1.5	8.0	10.0	65.0

表3 銘柄別給与量

生後日齢	25日	39日	60日	144日	158日	
体重	6.5kg	9.5kg	21.5kg	93kg	100kg	
銘柄	S	A M	S B P	S C P	種 A P	合計
A 腹		3.76kg	17.67kg	183.15kg	34.65kg	239.23kg
B 腹		4.26	19.32	185.79	32.76	242.18
C 腹		3.36	14.00	187.04	17.85	222.25
D 腹		4.69	19.04	187.67	32.48	243.88
E 腹		4.55	17.08	186.90	12.46	220.99
平均		4.12	17.42	186.11	26.04	233.69

表4 飼料の利用率

	A 腹	B 腹	C 腹	D 腹	E 腹
開始体重(kg)	5.98	6.23	5.82	6.57	6.38
出荷体重(kg)	102.00	105.47	96.94	100.34	91.74
出荷日齢	158	158	158	158	158
増体重(kg)	96.02	99.24	91.12	93.77	85.40
飼料摂取量(kg)	239.23	242.18	222.25	243.88	220.99
1日当り摂取量(kg)	1.71	1.82	1.68	1.84	1.67
要求率	2.29	2.44	2.43	2.60	2.59
育成率	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

表5 と体歩留り, 枝肉格付け

腹別	生体重	枝肉重量	個体別枝肉重量差	枝肉歩留	枝肉格付け		
					上	中	下
A 腹	816.0kg	567.0kg	± 5.0	69.48%	1	4	3
B 腹	632.5	441.0	± 7.0	69.72	3	2	1
C 腹	581.6	401.5	± 3.0	69.03	4	1	1
D 腹	903.1	624.5	± 4.5	69.15	5	2	2
E 腹	733.9	503.0	± 4.0	68.53	3	4	1
計	3,667.1	2,537.0	±14.5	69.18	43.2%	35.1%	21.6%

上; 上物価格

中; 15円~40円値引

下; 40円以上値引

考 察

試験頭数に腹別で±3と差があったのは初産の豚のため、体格、体型が一定していなかったのと、枝肉格付けでも同様であるが異系統であったことも原因と思われた。

春子の試験であったので、今後は夏子、秋子についても季節的に差が表れるかどうかの試験と、3～4産のものについても同様なことを試

みる必要があると思われる。

高カロリーの飼料を使用し体重100kgまで肥育したが、肉質で極端に悪いものはなく、市場一般が比較的枝肉重量が大きいものが好まれるようになっているので、96kg前後が上物合格率は良いように見受けられた。

一方、出荷体重調整の目的で、低カロリーの飼料を肉豚出荷前5～7日間与えるのも一つの方法であると思われる。